

1/30 朝日

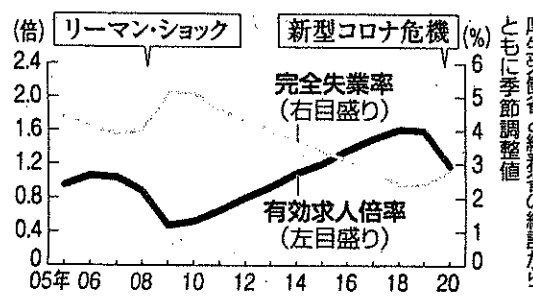
失業率2.8% 11年ぶり悪化

昨年平均コロナ禍雇用打撃

2020年の年平均の完全失業率は2.8%で、前年より0.4%悪化した。失業率が悪化したのは、前年にリーマン・ショックがあった09年以来、11年ぶり。新型コロナウイルス禍で、年間を通じて経済や雇用が大きな打撃を受けた影響が表れた。総務省が29日、発表した。

失業率は09、10年に5.1%まで悪化した。その後、人口減少による人手不足などを背景に、改善が続いてきた。20年は、就業者数が過去最高だった前年より48万人減り、6676万人に。正規雇用の働き手は

年平均の失業率と求人倍率の推移
厚生労働省と経務省の統計から、ともに季節調整値



増えた一方、非正規雇用の働き手は75万人減っており、なかでも女性が男性の

倍、減少した。完全失業者数は、前年よ

求人は1.18倍 45年ぶり悪化幅

一方、厚生労働省が発表した、求職者1人あたりに求人が何件あるかを示す有効求人倍率の昨年平均は1.18倍で、前年より0.42%低下。オイルショック後の75年(前年比0.59%)以来、45年ぶりの悪化幅だった。リーマン直後の09年の悪化幅(0.41%)を上回った。

年平均とあわせて発表された昨年12月の完全失業率(季節調整値)は2.9

り29万人増の191万人。仕事を休まされている休業者数は、最初の緊急事態宣言が出た昨年4月に過去最多の597万人にまで膨らんだが、年平均でも前年比80万人増の256万人と、68年以降で最も多かった。

%、有効求人倍率(同)は1.06倍で、ともに前月と同じだった。ニッセイ基礎研究所の斎藤太郎・経済調査部長は「新型コロナ下での失業率は、雇用調整助成金の拡充などの政策で、かなり低く抑えられてきた。景気が良くなるにうちに政策を縮小すれば失業が増え、今年の失業率は20年より悪化する可能性が高まる」と指摘する。

(吉田貴司、岡林佐和)